

## 基本操作手順

参照  
ページ

高温1コース	高温2コース	低温コース	予熱	
↓ 手動				
水栓（水道の蛇口）を開く				14
↓				
配線用遮断器を「入」、電源スイッチを「ON」にする				14
↓				
蓋を開ける				14
↓				
食材を入れる				15
↓				
蓋を閉める				15
↓				
コース選択ボタンを押す				15
↓				
(設定内容を変更する)				16
↓				
スタートボタンを押す				18
↓ 自動				
加熱用水を自動で注水				
殺菌		予熱		
冷却		↓		
排水				
運転が完了する				19
↓ 手動				
蓋を開ける				20
↓				
食材を取り出す				20
↓				
電源スイッチを「OFF」、配線用遮断器を「切」にする				20
↓				
水栓（水道の蛇口）を閉める				20

ご使用中

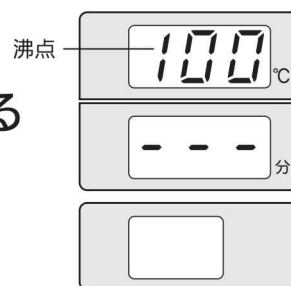
# ご使用方法

(つづき)

## 1. 水栓 (水道の蛇口) を開く

## 2. 配線用遮断器を「入」、電源スイッチを「ON」にする

- コントロールパネルのランプが点灯します。  
(最初の約2秒間は、デジタル表示部Iに沸点を表示します。)
- お使いになる前に排水フィルター、水抜き栓が確実に閉まっていることを確認してください。



### デジタル表示部

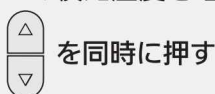
#### ■レバーが「閉」のとき

設定内容 (設定温度・時間) を表示します。  
この状態を「スタンバイ状態」といいます。

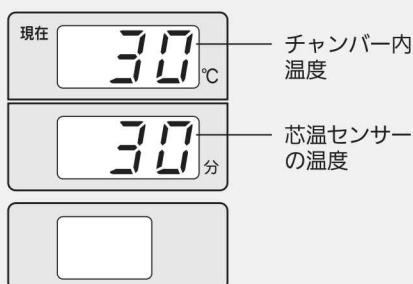


このとき、確認ボタンを押すと、押ししている間だけ、デジタル表示部Ⅲに排水温度と排水待ち時間を交互に表示します。

チャンバー内の温度及び芯温センサーの検知温度を確認するときは、



押ししている間、現在の温度を表示します。



温度が30°Cのとき (25°C未満のときは「L」&「o」と表示します。)

#### ■レバーが「開」のとき

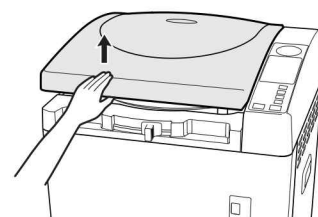
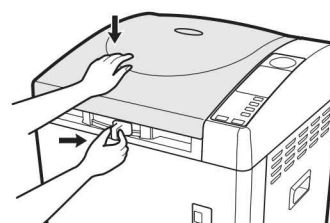
チャンバー内の現在の温度を表示します。



チャンバー内温度が30°Cのとき (25°C未満のときは「L」&「o」と表示します。)

## 3. 蓋を開ける (電源スイッチが入っていないと蓋を開けることができません。)

- ① 蓋を開ける前に必ず、次のことを確認する。  
無理に開けようとすると、故障の原因になります。
  - 電源スイッチが「ON」になっている。
  - 圧力計が「0 MPa」になっている。
  - レバーロックランプが消灯している。
- ② 蓋を下に押しながらレバーを「開」にスライドする。
- ③ 蓋は手をそえて、ゆっくりと開ける。



### ⚠ 注意

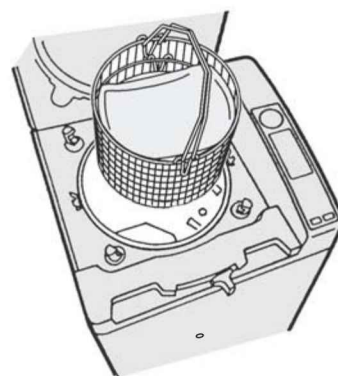


#### 蓋は手をそえてゆっくり開ける

蓋が勢いよく開いて、はね返りがおこり、ケガの原因になります。

## 4. 食材を入れる

- 付属のステンレス製バスケット、ステンレス製網棚に入れてチャンバー内に静かにセットしてください。
- F値を計算するために食材に芯温センサーを正しくセットしてください。(☞21~22ページ)



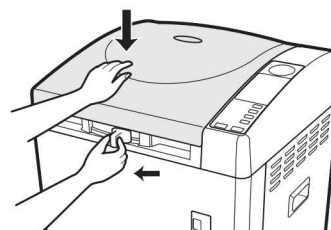
### メモ

- 運転する前に、もう一度「食材について」(☞10~11ページ)を参照して食材の入れかたなどを確認してください。
- 付属のステンレス製バスケット、ステンレス製網棚以外は使用しないでください。
- 付属のステンレス製バスケットを出し入れするとき、芯温センサーに引っかからないように注意してください。
- 食材を出し入れするとき、身体に負担がこないように注意してください。腰痛などの原因になります。

## 5. 蓋を閉める

- ① 蓋パッキンとチャンバー開口部が、汚れていたり、ゴミが付着していないか、確認する。  
汚れていたり、ゴミが付着していると、蒸気漏れの原因になりますので、お手入れしてください。  
(蓋パッキンとチャンバー開口部 ☞24ページ)
- ② 蓋を下に押しながら、レバーを「閉」にスライドする。  
デジタル表示部に設定温度・時間を表示します。
  - チャンバー内温度が60℃以上のときは、パッキンの膨張によりレバー操作が重くなります。

しっかり押さえる



ピッ

ご使用中

## 6. コース選択ボタンを押す

- 3つのコースと予熱が選択できます。

### 【コース内容について】

#### 高温1コース

自動注水後、ヒーターに通電してチャンバー内の加熱を開始します。チャンバー内の圧力を見ながら加圧と排気を繰り返し、設定した殺菌温度まで加熱し、殺菌終了まで設定温度を維持します。殺菌終了後は、チャンバー内を加圧しながら冷却します。

#### 高温2コース

自動注水後、ヒーターに通電してチャンバー内の加熱を開始します。100℃まで加熱しながらチャンバー内の空気を抜き、その後設定した殺菌温度まで加熱し、殺菌終了まで設定温度を維持します。殺菌終了後は、チャンバー内を加圧しながら冷却します。

#### 低温コース

自動注水後、ヒーターに通電してチャンバー内の加熱を開始し、設定した殺菌温度まで加熱し、殺菌終了まで設定温度を維持します。殺菌終了後は、チャンバー内を加圧しながら冷却します。高温1コースに比べると、殺菌温度設定可能範囲が異なります。(☞16ページ)


#### 予熱

殺菌前に予めチャンバー内をあたためることで、殺菌処理時間を短縮します。このとき、食材はいれません。自動注水後、ヒーターに通電してチャンバー内の加熱を開始します。加熱しながらチャンバー内の空気を抜き、その後設定した予熱温度まで上昇します。予熱時間終了後は、自動排水し終了します。その後食材殺菌に適した各コース(高温1・高温2・低温)を選択して使用してください。

※必要に応じ、別冊のクッキングブックの設定コースを参照ください。

# ご使用方法

(つづき)

- プログラムの設定値は変更することができます。必要に応じて変更してください。（\*変更可能範囲参照）  
（設定内容を変更する  16ページ）
- お買上げ時の設定値は下表の通りです。

コース	殺菌温度 <sup>※1</sup>	殺菌時間	排水温度 <sup>※2</sup>	排水待ち時間 <sup>※3</sup>	備 考
高温1	121℃	20分	40℃	5分	加熱用水はスタートボタンを押すと自動的に注水されます。 冷却工程では、冷却水が自動的に注水され、排水後完了になります。
変更可能範囲	101℃~121℃	0~250分	35℃~70℃	0~15分	
高温2	121℃	20分	40℃	5分	
変更可能範囲	101℃~121℃	0~250分	35℃~70℃	0~15分	
低温	85℃	30分	40℃	5分	
変更可能範囲	70℃~95℃	1~250分	35℃~70℃	0~15分	

選 択	予熱温度	予熱時間
予熱	80℃	10分
変更可能範囲	70℃~80℃	1~30分

※1 殺菌温度は96℃~100℃には設定できません。

※2 排水温度とは、冷却工程が終了し排水工程に移る温度です。

※3 排水待ち時間とは、排水温度まで温度が下がっても、強制的に冷却を継続する時間です。

食材の熱伝導が悪く、冷却が悪い場合には排水温度を下げ、かつ排水待ち時間を長くして容器包装の破損を防止してください。

## 7. 設定内容を変更する

- 設定値（殺菌温度・殺菌時間・排水温度・排水待ち時間・予熱温度・予熱時間）は、必要に応じて変更することができます。

① **設定** を押す。  ピッ

設定項目を点滅させます。  
1回押すごとに設定項目が移動します。





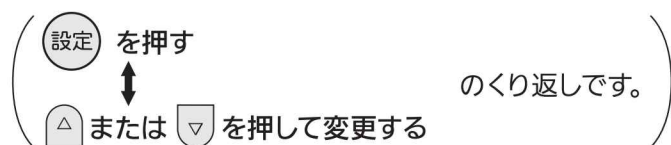
② ▲ または ▼ を押して、設定値を変更する。

## メモ

▲ ▼ は1回押すごとに1ずつ増減します。  
押し続けると早く増減し、設定値の最大値または最小値で停止します。

③ (設定) を押し、次の設定項目を点滅させる。 ピッ

▲ または ▼ を押して、設定値を変更する。



変更しない設定項目は、そのまま (設定) を押してください。

④最後に (設定) を押す。

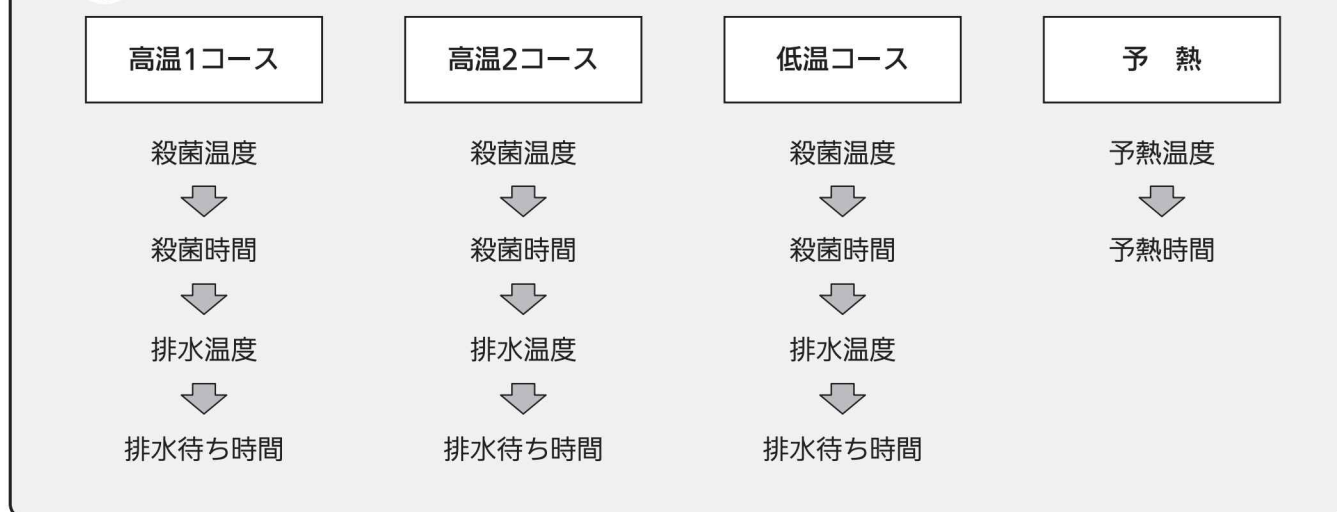
確定されたら「ピー」というブザー音がして、変更内容がプログラムにメモリされます。

\*点滅状態のまま約1分間放置すると、変更内容はメモリされずにスタンバイ状態になります。

(スタンバイ状態 ☞ 14ページ)

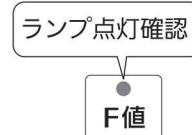
ご使用中

(設定) を押すごとに、このように設定項目が点滅移動します



## 8. スタート を押す ピピッ

- スタートボタンを押す前に、F値ランプの点灯を確認してください。F値ランプが点灯していない場合は、F値ボタンを押してください。  
※F値の表示 (F値ランプ点灯) は、1度設定すると電源を切っても記憶されています。



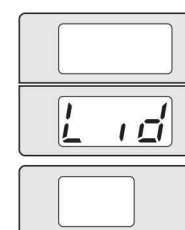
### メモ

予熱は、スタート を2回押すことにより工程がスタートします。  
予熱以外のコースは、スタート を1回押すと工程がスタートします。

### お願い

レバーが完全に「閉」にスライドしていないときは、デジタル表示部Ⅱに「L id」(注意サイン)が表示されます。もう一度レバーを「閉」にスライドして「ピッ」というブザー音を確認してから スタート を押してください。

- スタート後は、レバーのロック装置がはたらくと、レバーロックランプが点灯します。レバーロックランプ点灯中は、蓋を開けることはできません。



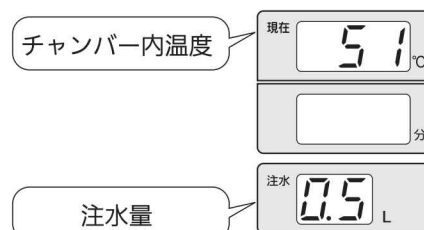
レバーが完全に閉まっていないとき

### 運転を中止するとき

運転中止のしかた 22ページ

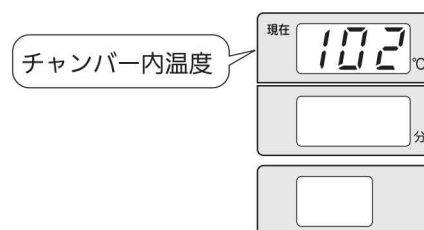


- 注水工程では、デジタル表示部Ⅰに現在のチャンバー内温度が表示され、デジタル表示部Ⅲに現在の注水量を表示します。



注水工程時の表示  
(51°C/0.5Lの場合)

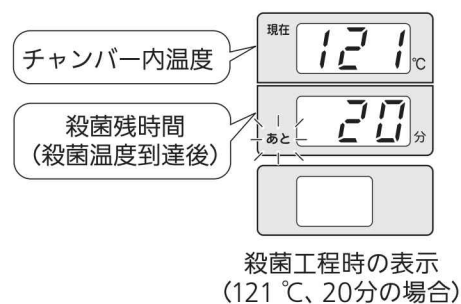
- 加熱工程では、デジタル表示部Ⅰに現在のチャンバー内温度が表示されます。



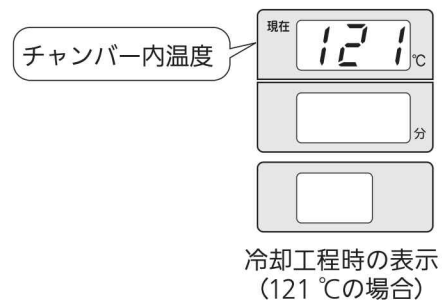
加熱工程時の表示  
(102°Cの場合)

※25°C未満のときは「L id」と表示します。

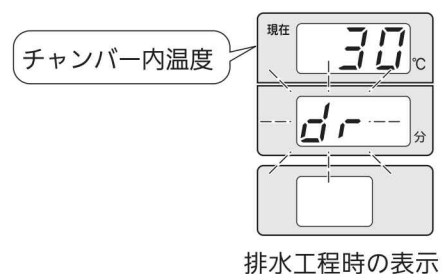
- 殺菌工程では、デジタル表示部Ⅰに現在のチャンバー内温度が表示され、デジタル表示部Ⅱに滅菌残り時間を表示します。



- 冷却工程では、デジタル表示部Ⅰに現在のチャンバー内温度が表示されます。



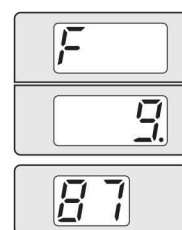
- 排水工程では、デジタル表示部Ⅰに現在のチャンバー内温度が表示され、デジタル表示部Ⅱに排水表示の「dr」点滅表示します。



### 運転中に設定内容を確認するとき

確認 を押す

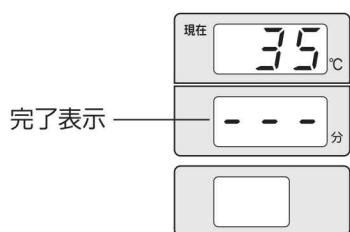
設定内容を表示します。3秒以上押すとF値を表示します。ただし、低温コース・予熱を選択した場合は、F値表示しません。



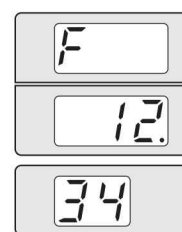
3秒以上押したとき  
F値が9.87の表示例

## 9. 運転が完了する

- 殺菌終了後、自動的に冷却・排水し「ピーピーピー……」とブザー音が鳴り、デジタル表示部Ⅱに完了表示します。
- F値ランプが点灯しているときは、デジタル表示部ⅠにF デジタル表示部ⅡとⅢにF値を表示し、(完了) が点滅します。



F値ボタンを使用しないときの表示

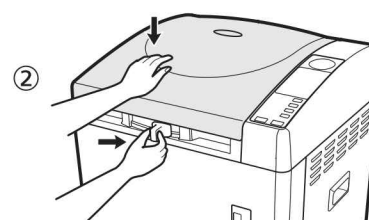


F値ボタンを使用しているときの表示例  
(F値12.34の時)

ご使用中

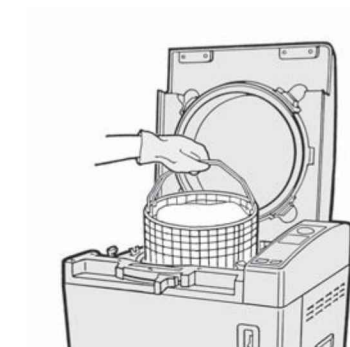
## 10. 蓋を開ける

- ①蓋を開ける前に必ず、次のことを確認する。  
無理に開けようとすると、故障の原因になります。
  - 圧力計が0 MPaに下がっている
  - レバーロックランプが消灯している  
(点灯しているときは、チャンバー内が高温または加圧状態になっていますので、レバーをスライドすることができません。)
- ②蓋を下に押しながらレバーを「開」にスライドする。
- ③蓋は手をそえてゆっくり開ける。



## 11. 食材を取り出す

- チャンバー内の蒸気が抜けてから、食材を取り出します。



### ⚠ 注意



#### ■ 蓋は手をそえてゆっくり開ける

蓋が勢よく開いて、はね返りがおこり、ケガの原因になります。

#### ■ 食材を取り出すときは、耐熱性皮手袋を使用する

液体は温度が下がるまでに時間がかかりますので、運転終了直後、素手で扱うとやけどの原因になります。

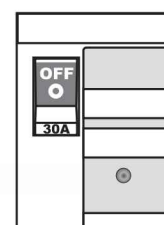


#### ■ 蓋を開けるときの、顔を近づけない

蓋を開けるときの、チャンバーから高温の蒸気が出ますので、顔を近づけないでください。  
やけどの原因になります。

## 12. 電源スイッチを「OFF」、配線用遮断器を「切」にする

- ①1日の使用が終了したら、電源スイッチを「OFF」にしてください。
- ②配線用遮断器を「切」にしてください。



## 13. 水栓 (水道の蛇口) を閉める

### チャンバー内の排水のしかた

運転途中で停止したとき、チャンバー内を洗浄したときなどは次の手順で排水してください。

<操作手順>

- ①電源スイッチを「ON」にする。
- ②蓋を閉める。

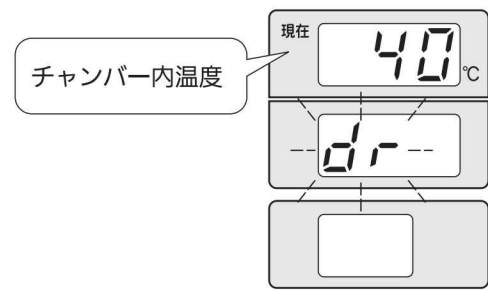


③排水を押す。

排水中はデジタル表示部Iにチャンバー内温度を表示し、デジタル表示部IIに「dr」表示し、点滅します。

④排水が完了すると自動で止まります。

デジタル表示部Iにチャンバー内温度を表示し、デジタル表示部IIに完了「---」表示をします。



排水中の表示例

お願い

運転途中で停止した場合は、加熱用水の温度が十分下がってから蓋を閉めた状態で排水を行ってください。やけどの原因になります。

## 芯温センサーの使いかた

芯温センサーは、食材の温度を直接検知して、F値表示させるためのセンサーです。

チャンバー内の温度センサーで制御するため、センサー検知温度に対して食材全体の温度は遅れます。

(食材について 10~11ページ)

①芯温センサーの装着

チャンバー内のホルダーから芯温センサーを抜き、取り出します。

(吊り下げ金具は外さない。) 芯温センサー用コネクターを取り付けた袋に殺菌する食材を入れて真空包装した後、芯温センサー用コネクターのセンサー挿入部にセンサーの先端を挿入します。

挿入部にはセンサーのシール用として、小さなゴムパッキンが入っています。ゴムパッキンは毎回交換してください。

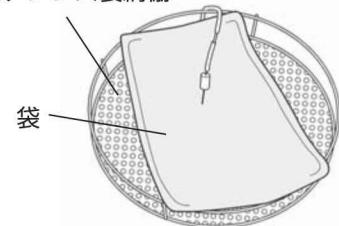
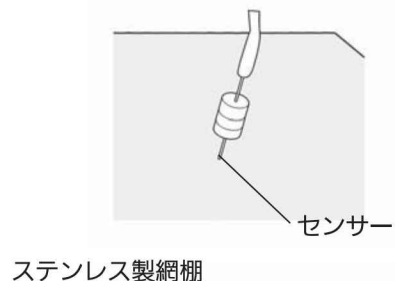
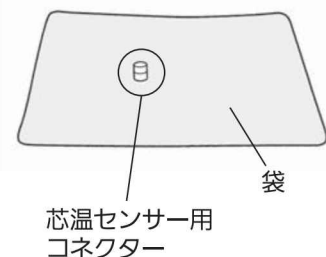
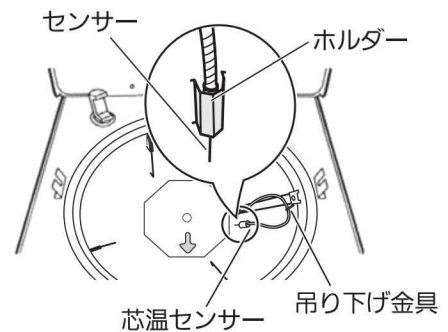
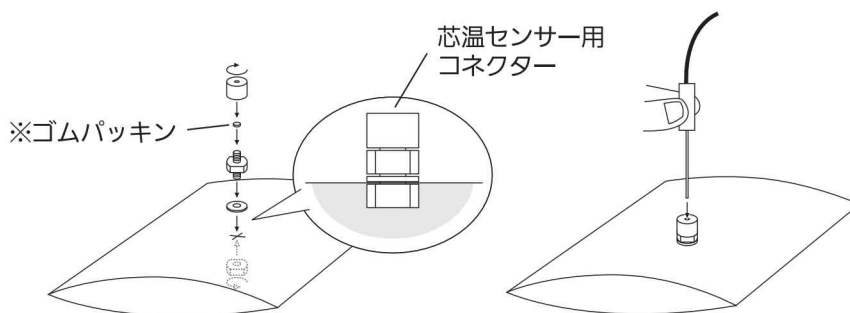
※ゴムパッキンは消耗品です。

②チャンバー内へのセット

センサーを挿入した食材入りの袋をステンレス製バスケット内のステンレス製網棚の上に静かにセットします。センサー部が食材の中心部にあるかどうかを確認します。殺菌しようとする他の食材を入れて、蓋をします。このとき、芯温センサーに張力が加わらないように注意してください。

芯温センサーがチャンバー蓋パッキンに接触、または噛み込まないように十分注意してください。

接触しているとチャンバー蓋を正常に閉めることが出来ず、蒸気漏れや故障の原因になります。



お願い

芯温センサーに張力が加わらないように注意してください。また、ステンレス製バスケットを出し入れするときに引っ掛けないように注意してください。

消耗・交換部品 (コード)

ゴムパッキン (661 068 0519)

芯温センサー用コネクター (661 068 0519)

ご使用中

### ③殺菌

スタートボタンを押す前に、F値ランプの点灯を確認してください。  
F値ランプが点灯していない場合は、F値ボタンを押してください。

※F値の表示 (F値ランプ点灯) は、1度設定すると電源を切っても記憶されています。

#### F値の表示について

これは、レトルト殺菌の全殺菌効果を表す値です。高温1、2コースでF値ボタンを押して (F値ランプ点灯) スタートボタンを押すと、運転中にF値の表示が可能になります。

確認ボタンを3秒間以上押すと、押している間は表示されますが、低温コースではF値は表示されません。スタンバイ状態でスタートボタンを押すと、それまでのF値は消去されます。

※食材に芯温センサーをセットしない場合でもF値ボタンを押すとF値の表示はされますが、有効な数値ではありません。

### ④芯温センサーの収納

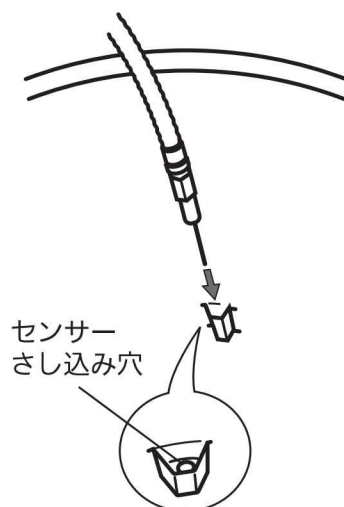
使い終わったら芯温センサーを袋から外し、センサーの汚れをふき取りホルダー内にある穴へセンサーをさし込み収納する。

#### お願い

センサー部は強くこすったり、曲げたりしないでください。  
故障の原因になります。

ランプ点灯確認

F値



## 運転中止のしかた (2種類の方法があります。)

設定ボタンを押して殺菌時間を「0」にする。

食材の損傷を防止するため冷却工程後、完了工程に進みます。  
完了表示が出るまで蓋は開きません。

または **ストップ** を「ビピー」と鳴るまで押し続ける。

自然冷却で温度が80℃未満になってから蓋が開けられる状態になります。

次のことを確認してから、蓋を開ける。

- 圧力計が0 MPaに下がっている
- レバーロックランプが消灯している

(点灯しているときは、チャンバー内が高温または加圧状態になっていますので、レバーをスライドすることができません。)

消灯

○レバーロック

スタート

## ⚠ 注意

食材を取り出すときは、耐熱性皮手袋を使用する



液体は温度が下がるまでに時間がかかりますので、運転終了直後、素手で扱おうとやけどの原因になります。